

関西学院大学専門職大学院 経営戦略研究科

ビジネススクール(経営戦略専攻)

「企業経営戦略コース」入学試験  
筆記試験(小論文)過去問題(1)

(注意事項)

- 監督者から試験開始の指示があるまで、問題用紙の内容は見ないでください。
- 試験場においては、すべて監督者の指示に従ってください。
- 机の上には筆記用具、受験票、時計のほかは置かないでください。  
それら以外の物はカバンに入れ、床の上に置いてください。
- 筆記用具および時計は、計算機能や翻訳機能などを組み込んだ物の使用は認めません。時計のアラームは解除し、携帯電話等は電源を切ってください。
- 不正行為者は試験を無効とします。

問題 以下の文章を読んで、下記の〔問1〕と〔問2〕について論述しなさい。

企業、NPOなどの非営利組織、病院、大学、政府、自治体などのあらゆる組織で経営改革が求められています。経営改革の課題は、ミッションや理念の開発と浸透、経営戦略の立案、財務・人材・情報などの経営資源の活用、組織体制の整備、生産管理、在庫管理、販売管理、イノベーション、説明責任やガバナンス体制の整備、社会責任の遂行、納税などの租税戦略など、枚挙にいとまありません。企業等の組織の経営者は、こうした様々な経営改革の課題に対して優先順位をつけて、課題を解決していく必要があります。そこでは経営者のリーダーシップや組織構成員への動機付け(モチベーション)が求められ、これらもまた、重要な経営改革の課題となっています。

日本経済の公的債務残高は、約1100兆円を超えると見込まれています(平成29年度末)。こうした膨大な金額の公的債務残高の存在は、日本経済の非常に深刻なリスク要因になっています。政府が進めようとするプライマリーバランスの均衡も、なかなか進まない現状にあります。地方に目を転じると、少子高齢化が深刻となり、地方都市の人口減少、限界集落の問題、森林の荒廃、地場産業の衰退などの状況にあります。中小企業の事業承継など、緊急に解決しなければならない火急の問題も存在しています。

わが国の経済と社会が改めて活性化して、企業等のあらゆる組織が、それぞれのミッションを適切に遂行し、都市と地方の均衡ある発展が実現されるようになるには、各組織における経営の課題を抽出して、その解決にまず取り組むことが重要です。

〔問1〕以下に掲げる組織の中から一つを選んで○を付し、その組織が抱える重要な経営改革の課題について論述しなさい。

組織：大企業、中小企業、多国籍企業、政府、地方自治体、非営利組織、病院、大学

〔問2〕〔問1〕で論述した経営改革の課題を解決するために、あなたが最も適切と考える経営のアプローチについて論述しなさい。